

会 議 録

1 会議名

第34回上越市景観審議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成29年度の景観事業の実績報告（公開）
- (2) 平成30年度の景観事業の取組（案）について（公開）
- (3) その他

3 開催日時

平成30年3月23日（金）午後1時30分～午後3時

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：武田陽子、三浦丈治、磯田一裕、田中隆司、小熊充、安部泰、黒野弘靖、村下剛、新部正道、南雲二郎、三箇理恵子、村田哲哉
- ・事務局：佐々木課長、長谷川副課長、近藤係長、石橋主任、須藤主任

8 発言の内容

(1) 佐々木課長あいさつ（都市整備部長の代理）

(2) 黒野会長あいさつ

黒野会長：本日は、年度末のお忙しい中、この会のために足をお運びいただきありがとうございます。今ほど、佐々木課長からも話がありましたが、本年度都市整備課で取組み、ご支援をいただいたまちづくり活動やセミナーについて、主に報告いただいて、今後の方向性について話をしたいと思います。また、セミナー等にご参加いただいた委員の方々もおられたとのことで、ありがとうございます。

本日は、忌憚のない意見を頂き、実りあるまちづくりにつなげていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(3) 議題

ア 平成29年度の景観事業の実績報告

黒野会長：それでは、ただ今から議題に入らせていただきます。報告事項(1)「平成29年度の景観事業の実績報告」について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（近藤係長が「平成29年度の取組実績について」を説明）

黒野会長：それでは、ただ今の「平成29年度の取組実績について」につきまして、ご意見、

ご質問や活動に参加された方いましたら感想などでも結構ですので、よろしく願いいたします。

武田委員：昨年度も聞きましたが、予算の件です。昨年度 400 万円の予算が 960 万円に拡大されていたと思うのですが、どのように使われたのか教えてください。

事務局：平成 29 年度におきましては、当初予算額約 960 万円の中で実施しました。約 640 万円が景観まちづくり事業の委託料として支出をし、うち約 300 万円が国からの補助になります。

武田委員：大雑把でよいので、南本町でいくら、セミナーがいくら、など各事業でかかった額をお聞きしたいです。

事務局：景観情報誌の印刷で約 50 万円、景観アドバイザーの報償費・旅費で約 120 万円、南本町三丁目景観まちづくり事業に関しては約 640 万円となっております。後は、事務費や旅費となっております。

武田委員：ありがとうございました。

黒野会長：他にご意見ご質問ございますでしょうか。

三箇委員は、セミナーにご参加されたとのことですが、もしよろしければセミナーでお感じになられたことをご披露いただければと思いますが、いかがでしょうか。

三箇委員：2 月の照明の景観セミナーに参加したのですが、すごく寒い日で、最後の照明の実践の時には、具合が悪くなってしまって途中で帰ってしまいましたので、あまり立派なことは言えないのですが、人数が少なかったです。天候の具合はしょうがないのですが、最後のライトアップを見ていないので、効果のほどがあまり言えなくてすみません。内容は悪くなかったと思います。

それよりも、先ほどの南本町の 640 万円の方が気になっていて、南本町に 640 万円全額かかっているのですか。

事務局：南本町にお金がいっているわけでは無くて、景観まちづくりを支援するための活動補助の委託をしております、その関係で予算をつけています。

三箇委員：地域活動支援事業からも補助がでていませんでしたか。

事務局：それは景観事業とは別です。

武田委員：先ほどのセミナーに、私も参加しました。素晴らしいセミナーでためになりました。悪天候の中、職員の皆さんが献身的に活動され、良いセミナーだったのですが、11 人しか参加していませんでした。南本町三丁目にウェイトをかけながら、のれんづくりやカラーコーディネートをされ、次はライティング問題もあると思うのですが、一番の学びの場のセミナーをなぜ南本町三丁目やらなかったのか。小川呉服店や旧今井染物屋の問題もあったのかと思うのですが、ちょっともったいないと思います。セミナー講師の稲葉先生もあまりお金をかけずにこれだけのことができるとおっしゃっていたのがすごく耳に残っていて、南本町三丁目からの参加者がどうだったのか気になっていました。そこら辺をお聞きできればありがたいです。

事務局：当日は、南本町三丁目の方にもお声がけしております、参加者は 1 名でしたが、お手伝いいただいた電気業者も南本町 3 丁目の方で、セミナーで学んだことを町内

に還元していただけることを私たちも期待しております。

黒野会長：三箇委員におかれましては、たいへん寒い思いをされたとのことで大変でしたが、写真を見ると、雪の中での照明は暖かみを感じられる効果があったように感じました。武田委員も大事なご指摘ありがとうございます。これらが次年度以降の事業や他のまちへつなげて行くことが大事と感じました。

他、何かありますでしょうか。

武田委員：景観づくり重点区域の安塚区ですが、昨年お聞きしたところ、行政の方が足踏みしており、市としても気になっているが様子見とのことでした。景観の届出は数件あったようですが、安塚区は今どうなっているのでしょうか。

事務局：安塚区は合併前の安塚町時代から積極的に景観形成に取り組んでいる経緯がありましたので、安塚区を重点区域に指定しました。

住民の方々が、草木を育てる活動をしているなど、景観に対して高い意識をもっておられるので、住民の方の取組を期待しているところであります。現在は南本町三丁目で仕掛けをしておりますが、住民からの発議がありましたら検討していきたいと考えております。

私は、上越出身ではないのですが、上越に来て、市民団体の景観に対する意識の高さに驚きました。数多くの市民団体の方も活躍されています。しかし、地元の住民の方の住民意識と市民団体の方との温度差が若干あるように感じております。今回の南本町三丁目に関してはモデルケースになりますが、住民の景観に対する意識の高揚があって、今活動されている市民団体の方とも連携が図れば、他地域へ波及していくとも考えられますし、安塚も含めてモデルケースとして様々な地域に波及していくのかと思っております。

黒野会長：ありがとうございました。他はいかがでしょう。

磯田委員：今までの経緯の中で、各年度に置いてきたものがいろいろあったと思います。建造物等の景観資産の特定も、もうちょっと待って下さいと言ったままやむやみになって、よく分からない状態があって、ちょっと休憩していたら、南本町三丁目がでてきました。これは前に議論になった高田地区での重点区域等の修景も含めた景観を重点に整備していこうという中のモデルケースとして取り上げたのか、たまたまここを一つのケースとしてやり始めたのか、住民発議があって始めたのか、今までの経緯と、今年度の取組との整合性について教えてください。

事務局：自然分野の景観資産10項目は特定しておりまして、建造物や樹木などの特定をする方針でありました。建物やまちなみは個人の財産ですので、私権を制限することになる、維持管理も個人の方がやっていくことになる、特定しても継続的にその景観を維持していく体力があるのかといった問題もあり、どの部分を選定するべきなのか等を決める前に、地域の方々の景観の意識を高めていただいて、地域の資産として地域で景観を守り育てていくという住民意識の醸造と、そういった意識の高い地域で歴史的に優れている建造物等に対して特定していくべきですので、現段階での建造物等の特定に関しては時期尚早と考えております。まずは意識啓発に対す

る取組として情報紙やセミナー、南本町三丁目のモデルケースとして、意識の醸造を図っている状況であります。

磯田委員：景観資産の経緯は分かりました。南本町三丁目を選定された経緯についてはよくわからないので、もう一度教えていただきたいです。当初は、高田小町や高田世界館、大町周辺を重点的な景観形成を図っていくべきとの各委員からの意見があったと思います。当時から、南本町三丁目は独自の動きをしていたので、委員の皆さんも認識があったと思いますが、南本町三丁目の景観まちづくり活動の立上げとの関係をもう少し詳しく教えてください。

事務局：南本町三丁目は、町内の人と人とのつながりが非常に強い地域だと感じました。地域自体のまとまりも感じられますので、協働して事業を進めていくポテンシャルがある地域です。また、他にも雁木が残っている地域はありますが、商店街や学校、保育園や集合住宅などが比較的密集をしているもの選定の理由のひとつです。また、町内誌の発刊や地域で様々な活動をしているといったところで選定いたしました。

磯田委員：ありがとうございます。

黒野会長：他はいかがでしょうか。

こちらから、恐縮ですが、今のほどの事務局の説明でもあった、南本町三丁目の景観まちづくり活動の中で上越総合技術高等学校の4人の生徒に参加いただいて、町内の方とのやり取りが伝わってくるようでしたが、村田先生がそのことに対してお感じになられたことなどありましたら、ご披露いただけないでしょうか。

村田委員：みなさんはじめまして。上越総合技術高等学校の村田と申します。私は生まれが柏崎で、まち並みが上越と柏崎でどう違うのか分からない状態だったのですが、昨年度に引き続き高校と市役所が連携して何かをしたいという思いがありました。昨年度はフリーペーパーを通じてこの地域との関わりをもっていたのですが、今年度は何かものづくりを通して地元と関われないかと思っていました。この地域の方々と触れ合う中で、生徒からも良い町内だねという感想もありました。生徒と一緒にまち歩きをする中で、目立つのは空き家だったので、空き家を使わせてもらってよいものができたとは思いますが、成果としてはどうだったのか。アンケート結果で、良かったという意見を聞くとすごくうれしいのですが、課題にもなっていた継続性に関して考えると、生徒も毎年変わりますし、来年度も何か関わったら良いとは思いますが、継続性を求めるなら、こうしたいという計画等が先にまとまっていれば、それに対してやりたい生徒の募集を呼びかけたりできたのかな、というのが今年度行って実感したことです。本当に楽しく関わらせていただきました。

黒野会長：ありがとうございました。町内の方々から喜んで頂いたことはよく分かりましたし、関わられた生徒さんも同様に感じていたとのことで、今後も有意義な活動を進めてください。

他はいかがでしょうか。

イ 平成30年度の景観事業の取組（案）について

黒野会長：それでは、次第に沿いまして、報告事項(2)「平成30年度の景観事業の取組(案)について」ということで、事務局から説明をお願いします。

事務局：(近藤係長が「平成30年度の景観事業の取組(案)について」を説明)

黒野会長：今ほど説明のあったように、来年度は事業を進めていかれるとのことですが、この報告事項(2)についてご質問等がありましたら、よろしく願いいたします。

三箇委員：予算も今年度と同じくらいになるのでしょうか。

事務局：平成30年度の予算につきましては932万3千円となっており、昨年度に比べますとマイナス27万6千円ですが、ほぼ同額となっております。

黒野会長：よろしいでしょうか。他はいかがでしょうか。

武田委員：私は、委員に募集してから予算のことも何も分からなかったのですが、市から出される広報誌等に目を通してきたのですけれど、気になっていることがあります。新幹線が停まって、観光の面でも有利な状況になってきているのに、実際は糸魚川や富山にもっていかれている感じがして、市民としてもどうしたらよいのと思っている人はたくさんいます。その気持ちが強くてこの委員に応募したのですが、観光と景観まちなみはすごく関係があるのに、よそから来られた方からは、こんなに良い観光資源があるのに、この土地は観光資源が繋がっていないと言われてたりして、その一つがまちなみのことだと思うのです。景観に関してですが、産業振興課や観光振興課等との横の連携がどうなっているのか。それ無しでこのことだけ議論してもどうなのでしょう。景観は人々の生活から滲み出てくるものとの説明もありましたが、商店街の方々には下降気味の賑わいを取り戻したいという意識もあり、この活動に取り組んでいるということが分かります。行政として、横の連携をどのように見据えているのかは非常に大きいと思うのですが、どのように考えているのかお聞かせください。

事務局：市の内部の連携はとれている状況にあると考えております。来年度から、旧今井染物屋や高田世界館周辺の周遊のための施設整備を企画政策部局で立ち上げる予定になっており、その検討委員会に私も参加しており状況は承知しております。今後、そういった取組が進んでいくものと考えております。あと、まちなみ景観につきましては、そこで生活している方がいらっしゃいます。観光客が押し寄せて生活者が迷惑をこうむっているという事例もありますので、まずは住んでいる方がどのようなまちをつくって、何を観光資源とするのか、地域の方々の合意が大切だと思っておりますので、地域の方々が話し合えるような体制が作られれば良いと思っております。

また、観光という観点からは、高田公園の桜は上越市の最大の観光資源と考えておりますが、この桜を生かした県内初の全国さくらシンポジウムを4月12、13日に開催しますし、桜の樹勢があまり良くない状態なので、樹勢を回復する様々な取組も当課で行っております。また、来年度からはさらに桜の管理体制を強化するための取組も行っていることを参考までに、話をさせて頂きました。

武田委員：都市整備課としては、各部門関係の会議に出られて、各部署の事業が縦横につな

がるように努力されているということでもよかったですでしょうか。

事務局：はい。

武田委員：もう一つ教えてください。地方創生推進交付金ですが、この部署と関係は無いのでしょうか。

事務局：地方創生の交付金ですが、城下町高田を生かした事業の一環として、南本町三丁目の取組支援もこの交付金を使用させていただいております。

武田委員：ありがとうございます。

黒野会長：他にいかがでしょうか。

小熊委員：私は、サイン関係の仕事をしております。景観セミナーについて、広告美術業協同組合から、若手3人が参加させていただきました。先日行われた組合の総会では、大変勉強になり意義のあるセミナーだったとの報告を受けました。建設業組合や塗装業組合の方々も勉強してらっしゃると思うのですが、それを上越市としてはどのように考えているのか。先日のセミナーのようなことは非常に良かったので、いろんな分野でそれをもっと広げて行ってもらえれば良いと思っております。

それから、予算の面ですが、南本町三丁目に640万円をかけたのとことですが、成果が少ないような気がします。委託費用も入っているのかもしれませんが、コストパフォーマンスが悪いような気がします。

30年度の南本町三丁目の事業計画ですが、町内との協議が済んでいないため公表できないとのことでしたが、審議会としては来年度まで会議開催が無いとなると、その間、南本町三丁目は何をやっているのか分からない。途中で情報を頂ければ、南本町三丁目での景観づくりの活動状況が分かります。年度末に活動報告を聞くだけではなく、途中で資料を流していただければと思います。

事務局：セミナーの件は、お褒め頂きありがとうございます。このように優れた知見をお持ちの方から講義していただくことは非常に有意義だと思っております。行政職員、業会を含め、優れた知見を学習する機会は今後も設けていきたいと思っております。

南本町三丁目につきましては、業務委託という形で行っておりまして、町内会への活動補助は微々たるもので、ほとんどが委託料です。委託業者につきましても、全国各地での優れた事例を調べて、第一線で活躍されている方の知見や成功事例なども併せて話をさせていただいており、南本町三丁目がどうあるべきかという知見をお伝え頂き、地域の方々の意識の高揚を図っているところであります。こういった会やワークショップの開催という活動は、決して無駄なことではありませんので、今後も費用対効果を含めて話し合いながら進めていきたいと思っております。

また、途中経過につきましては、我々の方で途中での情報提供ができるか検討をしてみたいと思っております。

黒野委員：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

三箇委員：私も去年から参加させていただいて疑問に思っていたが、年度末にこういった会議を行うのは、結果報告でしかなくて、私たちの意見がどのように生きていくのかわかりません。年度初めにこのような会議があり、その場での意見が参考にしてい

ただき、また年度末に会議を開催する、といった形になるのが本来なのではないでしょうか。

事務局：ご意見ごもっともだと思います。こういった形で進めていくかは、事務局で検討していききたいと思います。

三箇委員：予算に関してなんですが、できれば予算をどういうに使うのか内訳を全部記入したものを出示していただいて、年度末には結果報告をしていただくということもあってしかるべきではないでしょうか。

事務局：ご指摘ごもっともだと思いますので、事務局内部の方で検討し、方向性を定めていききたいと思います。

黒野会長：他いかがでしょうか。特にないようでしたら、(2)の報告事項について終わらせていただきます。頂いた意見についてご検討いただき、反映した形で進めていただければと思います。それでは、(3)その他では何かありますでしょうか。

ございませんようですので、次第4.の報告事項はすべて終了となります。それでは、議事を終了し事務局にお返ししたいと思います。皆さまご協力ありがとうございました。

事務局：黒野会長ありがとうございました。また、活発なご意見ありがとうございました。以上をもちまして「第34回上越市景観審議会」を閉会いたします。では、気を付けてお帰りください。ありがとうございました。

9. 問合せ先

都市整備部都市整備課監理係 Tel.025-526-5111 (内線 1784)

E-mail : toshiseibi@city.joetsu.lg.jp

10. その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。